

---

## 大和川水系石川ブロック飛鳥川、梅川、天見川 の河川整備の事業評価について

---

### ◎ 今回の事業評価について

1. 事業概要
2. 事業の必要性等に関する視点
3. 事業の進捗の見込みの視点
4. コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点
5. 特記事項
6. 対応方針(案)

# 今回の事業評価について

- 大阪府では、建設事業の効率性及び実施過程の透明性の一層の向上を図るため、建設事業評価を実施している。
- 河川事業・ダム事業については、大阪府河川整備審議会で事業評価を実施している。  
(「大阪府河川事業・ダム事業の事業評価(平成28年7月 大阪府都市整備部河川室)」)
- 大和川水系飛鳥川、梅川、天見川の事業については、H26年度に実施された「一級河川 石川外 河川整備計画策定」の審議をもって事業評価としており、評価後10年を経過するため、R5年度に事業評価を実施するもの。

## 《事業評価について》

	再評価(再々評価)
目的	事業継続の妥当性を判断するとともに、より効率的な実施方法等を検討する。
対象	総事業費10億円以上の事業
評価時期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業計画の大幅な変更……………①</li> <li>・事業採択後5年未着工、<b>事業採択後10年継続</b></li> <li>・再評価後5年継続毎(事業未着工のものは除く)</li> <li>・総事業費の大幅な変更</li> <li>・その他評価の必要が生じた事業</li> </ul> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">             } ②         </div>
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業状況(事業計画等の変更及び今後の進捗見直しを含む)</li> <li>・事業を巡る社会経済情勢の変化</li> <li>・費用便益分析等の効率性</li> <li>・安全・安心、活力、快適性等の有効性</li> <li>・自然環境への影響と対策</li> </ul>
審議方法	<b>①</b> の場合は、河川整備計画(案・変更案)の審議・了承 <b>②</b> の場合は、 <b>再評価(再々評価)調書により審議</b>

※「大阪府河川事業・ダム事業の事業評価(平成28年7月 大阪府都市整備部河川室)」より抜粋

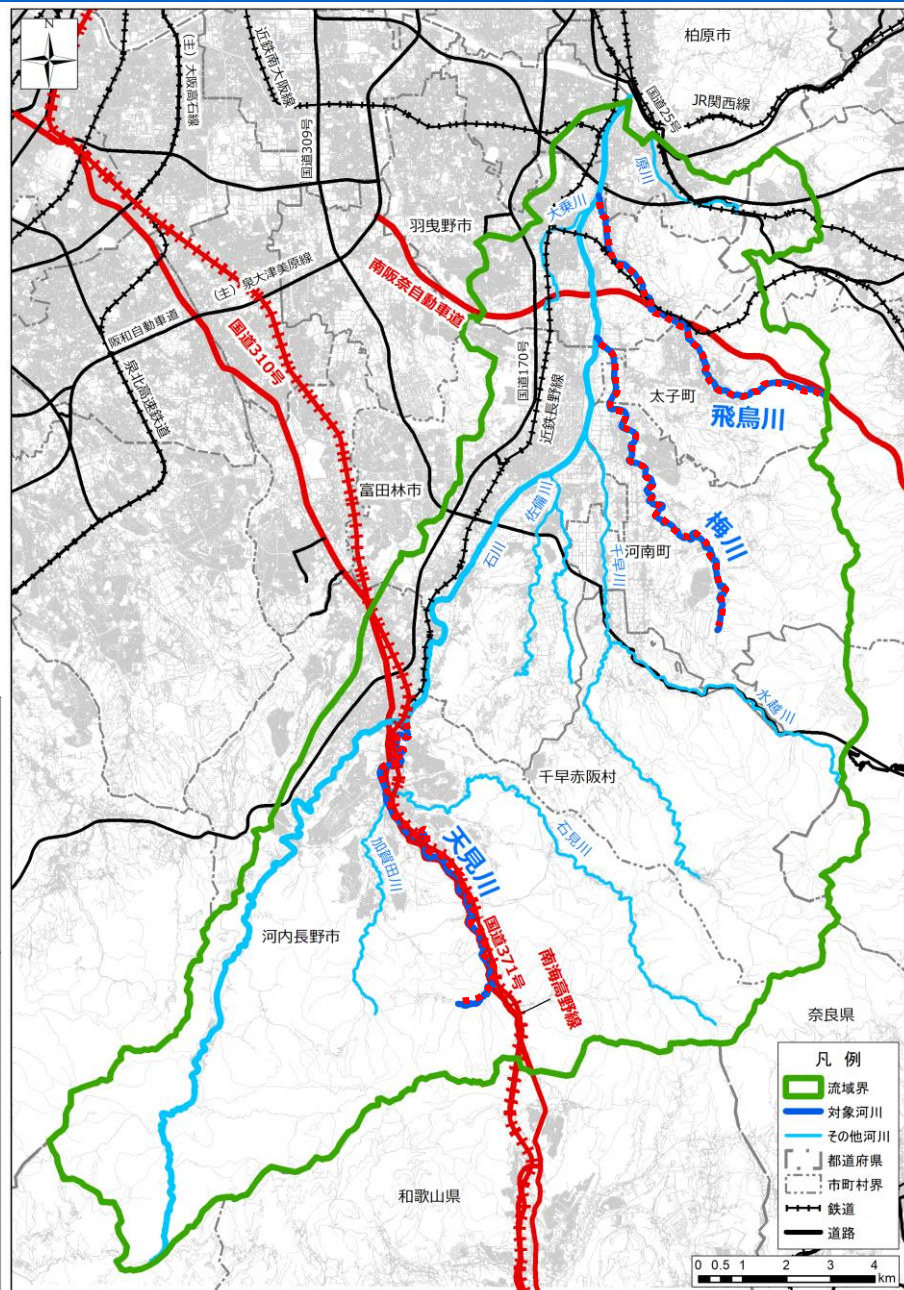
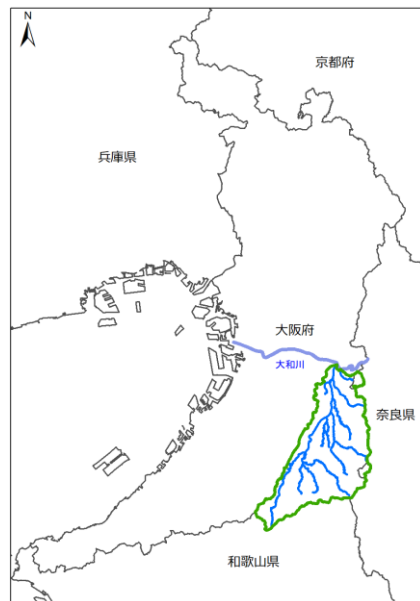
# 1. 事業概要

## 流域の概要

- 流域面積：約222km<sup>2</sup>
- 流域市町：6市2町1村  
富田林市・河内長野市・柏原市・羽曳野市・藤井寺市・太子町・河南町  
千早赤阪村・奈良県香芝市
- 石川ブロックは、一級河川石川とその支川（飛鳥川、梅川、天見川など11の支川）および、一級河川原川で構成されている。
- 流域には、国道371号や南海高野線、南阪奈自動車道などの重要な道路や鉄道が位置し、周辺地域における交通の要所となっている。

### 河川延長等一覧

河川名	指定区間延長 (km)	流域面積 (km <sup>2</sup> )
石川	29.9	222.27
飛鳥川	5.5	10.91
大乗川	2.0	9.18
梅川	7.3	32.25
太井川	2.6	6.8
千早川	13.6	35.30
水越川	5.7	14.75
佐備川	6.3	17.30
宇奈田川	0.2	3.50
天見川	7.5	56.46
石見川	4.5	14.47
加賀田川	1.8	18.98
原川	3.7	6.14



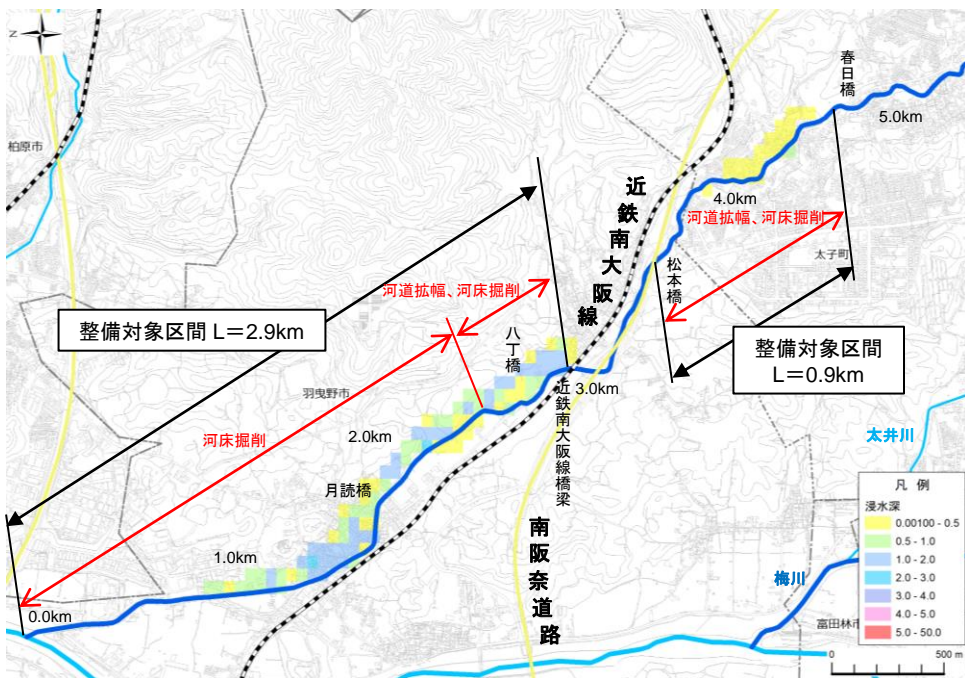
# 1. 事業概要【飛鳥川（流域市町：太子町・羽曳野市・柏原市・奈良県香芝市）】

## 事業内容

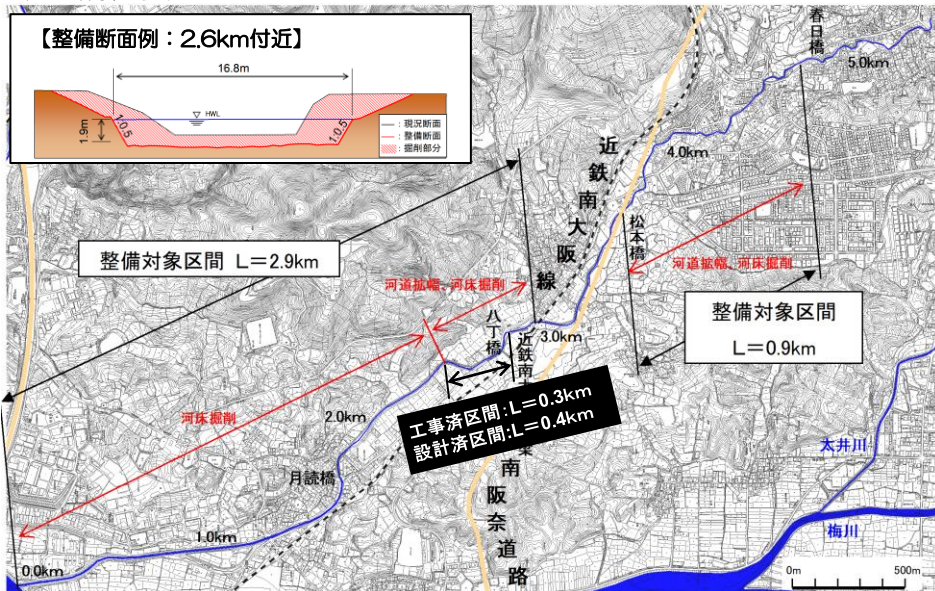
- ・時間雨量65ミリ程度の降雨(30年に1回程度発生するおそれのある降雨)による洪水で床上浸水を防ぐことを当面の治水目標として河川整備を行います。
- ・整備対象区間において、河道拡幅、河床掘削等の洪水対策を実施します。

河川名	整備対象区間	整備延長	整備内容
飛鳥川	石川合流点～近鉄南大阪線橋梁	約2.90km	河道拡幅及び河床掘削を行う。
	松本橋～春日橋下流	約0.90km	

### ◇浸水範囲（改修前：時間雨量65ミリ降雨）



### ◇整備概要



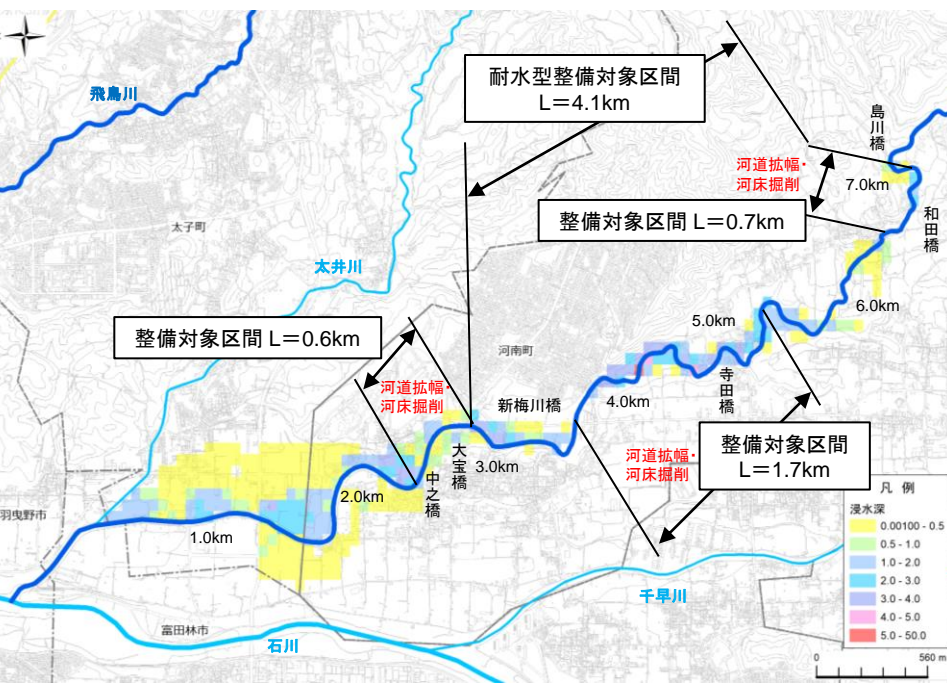
# 1. 事業概要【梅川（流域市町：河南町・千早赤阪村・太子町・富田林市・羽曳野市）】

## 事業内容

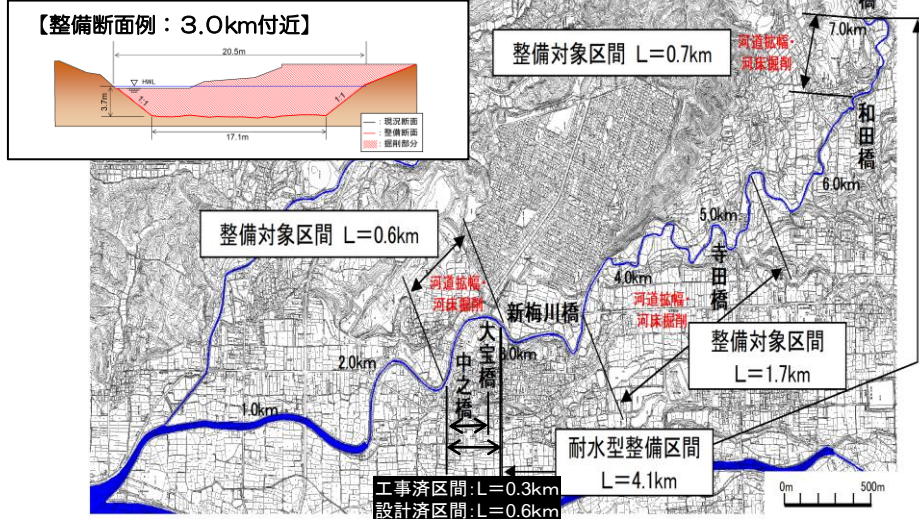
- ・時間雨量50ミリ程度の降雨（10年に1回程度発生するおそれのある降雨）による洪水で床上浸水を防ぐことを当面の治水目標として河川整備を行います。
- ・整備対象区間において、河道拡幅、河床掘削等の洪水対策を実施します。

河川名	整備対象区間	整備延長	整備内容
梅川	中之橋下流～大宝橋上流	約0.60km	河道拡幅及び河床掘削を行う。
	新梅川橋～寺田橋上流	約1.70km	河道拡幅及び河床掘削を行う。 また、耐水型整備区間として局所的な浸水被害軽減対策を実施する。
	和田橋～島川橋	約0.70km	

◇浸水範囲（改修前：時間雨量50ミリ降雨）



◇整備概要



◇現地状況（中之橋上流部）



※耐水型整備対象区間とは部分的改修、流出抑制などあらゆる手段を組合せて、効果的かつ効率的に浸水リスクの低減に取り組む区間

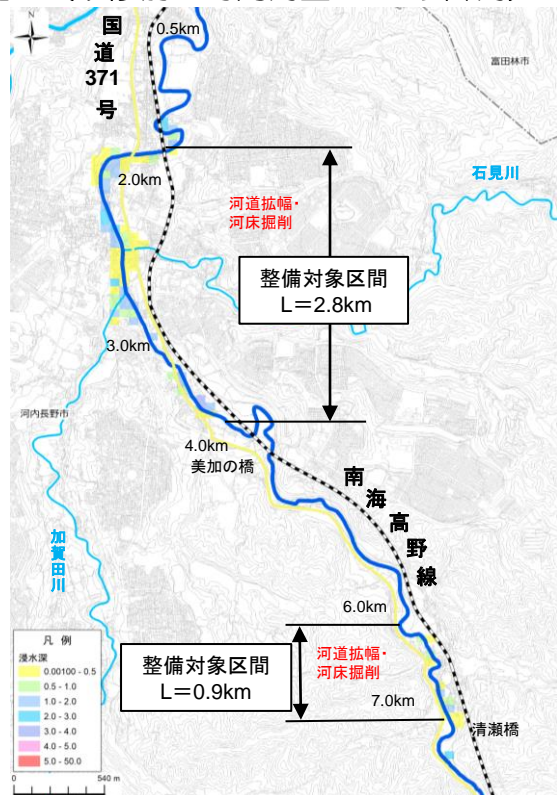
# 1. 事業概要【天見川（流域市町：河内長野市）】

## 事業内容

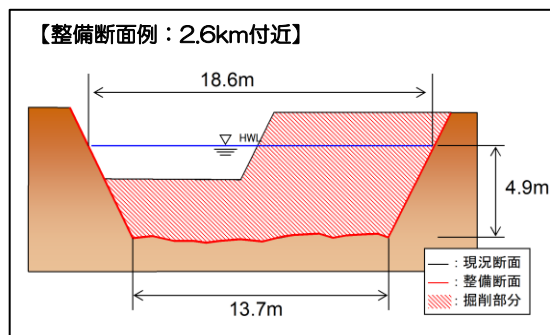
- ・時間雨量50ミリ程度の降雨（10年に1回程度発生するおそれのある降雨）による洪水で床上浸水を防ぐことを当面の治水目標として河川整備を行います。
- ・整備対象区間において、河道拡幅、河床掘削等の洪水対策を実施します。

河川名	整備対象区間	整備延長	整備内容
天見川	南海高野線橋梁下流～美加の橋下流	約2.80km	河道拡幅及び河床掘削を行う。
	高橋～清瀬橋	約0.90km	

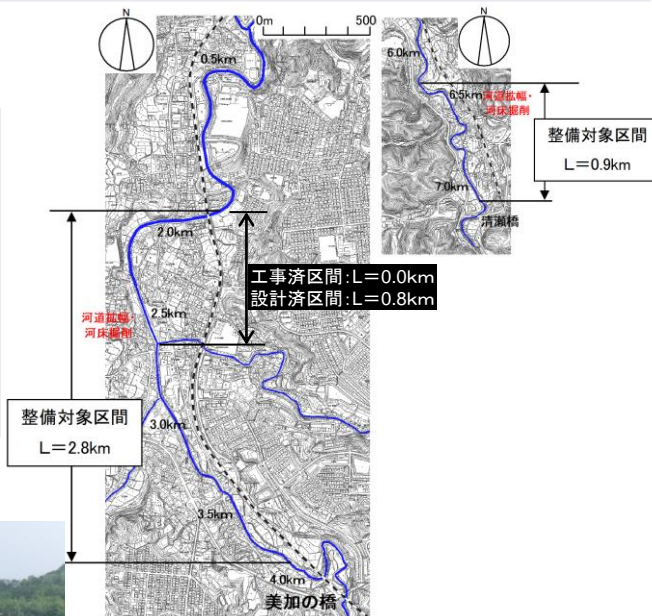
### ◇浸水範囲（改修前：時間雨量50ミリ降雨）



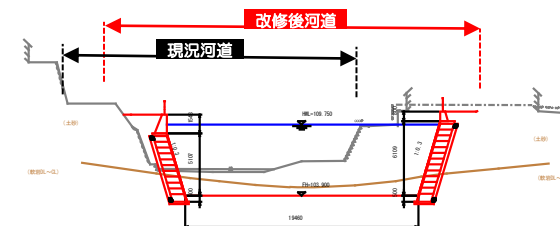
### ◇整備概要



### ◇現地状況（南海高野線橋梁下流部）



### 改修断面(案)



## 2. 事業の必要性等に関する視点

### 事業を巡る社会経済情勢等の変化 主な洪水被害

- ▶ 治水事業を着実に進めているが、未改修区間が残り、近年でも氾濫危険水位を超過する水位上昇が確認されている。今後も洪水に対する安全性を向上させるため、改修を進めていく必要がある。

近年の豪雨		最大日雨量	時間最大雨量 ※	被害状況
昭和57年8月	台風10号 豪雨	192.5mm	33mm	飛鳥川において床下浸水50戸、梅川において床上浸水5戸、床下浸水2戸の被害を受けた。
平成元年7月	豪雨	57mm	17mm	飛鳥川において床下浸水66戸の被害を受けた。
平成11年6月	豪雨	61.9mm	59mm	飛鳥川において床下浸水32戸の被害を受けた。
平成25年9月	台風18号 豪雨	111.5mm	30.5mm	天見川(平和橋上流部)において越水が発生。 (浸水家屋なし)
近年の豪雨		最大日雨量	時間最大雨量 ※	水位状況
令和5年6月	豪雨	234mm	41.5mm	飛鳥川・梅川・天見川等において、氾濫のおそれがあるとして、石川流域の市町村で避難指示等が発令された。また、飛鳥川(逢坂橋観測所)、梅川(梅川橋観測所)、天見川(平和橋観測所)で氾濫危険水位を超過した。



平成25年9月豪雨(天見川:平和橋上流)



令和5年6月豪雨(飛鳥川:八丁橋上流)

・時間雨量31.9ミリで2年に1回程度発生するおそれのある降雨

※河内長野観測所(気象庁)

### 事業を巡る社会経済情勢等の変化 洪水発生時の影響

- ▶ 前回評価時から浸水区域内の世帯数は増加しており、洪水発生時には被害が発生することから、河川整備の必要性は高まっている。

河川名	【前回評価時点 H26】	【再評価時点 R05】	備考
飛鳥川	浸水想定面積:約30ha 浸水世帯数:345世帯	浸水想定面積:約30ha 浸水世帯数:368世帯	河川整備計画で定められた30年に1度の降雨規模の浸水面積・浸水世帯数
梅川	浸水想定面積:約88ha 浸水世帯数:419世帯	浸水想定面積:約88ha 浸水世帯数:447世帯	河川整備計画で定められた10年に1度の降雨規模の浸水面積・浸水世帯数
天見川	浸水想定面積:約21ha 浸水世帯数:217世帯	浸水想定面積:約21ha 浸水世帯数:223世帯	河川整備計画で定められた10年に1度の降雨規模の浸水面積・浸水世帯数

# 3. 事業の進捗の見込みの視点

## 事業の進捗状況、進捗率

**【飛鳥川】** ▶ 大和川水系石川ブロック河川整備計画(H28.10改定)に位置付けて事業を進めており、令和4年度末で約0.3kmの改修工事を実施済。全体進捗率は約15%である。

	項目	前回評価時	今回評価
事業計画	①事業採択年度	①H26年	①H26年
	②事業着工年度	②H26年	②H26年
	③完成予定年度	③R25年	③R25年

	項目	前回評価時	今回評価
実施状況	① 工事	①0%	① 9%
	② 調査・設計	②0%	②10%
	進捗率(全体)	0%	15%

※①、②は計画延長に対する工事(詳細設計)実施率  
進捗率(全体)は、事業費ベースでの進捗率

**【梅川】** ▶ 大和川水系石川ブロック河川整備計画(H28.10改定)に位置付けて事業を進めており、令和4年度末で約0.3kmの改修工事を実施済。全体進捗率は約17%である。

	項目	前回評価時	今回評価
事業計画	①事業採択年度	①H26年	①H26年
	②事業着工年度	②H26年	②H26年
	③完成予定年度	③R25年	③R25年

	項目	前回評価時	今回評価
実施状況	① 工事	①0%	①10%
	② 調査・設計	②0%	②21%
	進捗率(全体)	0%	17%

※①、②は計画延長に対する工事(詳細設計)実施率  
進捗率(全体)は、事業費ベースでの進捗率

**【天見川】** ▶ 大和川水系石川ブロック河川整備計画(H28.10改定)に位置付けて事業を進めており、令和4年度末で約0.8kmの調査設計を実施し、用地買収に向けた協議を実施中。全体進捗率は約7%である。

	項目	前回評価時	今回評価
事業計画	①事業採択年度	①H26年	①H26年
	②事業着工年度	②H26年	②H26年
	③完成予定年度	③R25年	③R25年

	項目	前回評価時	今回評価
実施状況	① 工事	①0%	① 0%
	② 調査・設計	②0%	②20%
	進捗率(全体)	0%	7%

※①、②は計画延長に対する工事(詳細設計)実施率  
進捗率(全体)は、事業費ベースでの進捗率



# 1. 事業概要【飛鳥川】

## 事業費〔前回評価と今回評価の比較：飛鳥川〕

飛鳥川

	全体事業費	工事費	用地費	調査費
前回評価時	約84.7億円	約66.4億円	約13.7億円	約4.6億円
今回評価	約95.7億円	約77.0億円	約13.7億円	約5.0億円
増減	約11.0億円増	約10.6億円増	増減なし	約0.4億円増

## 事業費の変更理由〔前回評価と今回評価の比較：飛鳥川〕

### 【事業費変動要因の状況】

- 社会的要因(人件費や消費税等の上昇)による事業費の増加。〔約11.0億円増〕

# 1. 事業概要【梅川】

## 事業費〔前回評価と今回評価の比較：梅川〕

梅川

	全体事業費	工事費	用地費	調査費
前回評価時	約114.5億円	約84.0億円	約27.0億円	約3.5億円
今回評価	約127.2億円	約96.3億円	約27.0億円	約3.9億円
増減	約12.7億円増	約12.3億円増	増減なし	約0.4億円増

## 事業費の変更理由〔前回評価と今回評価の比較：梅川〕

### 【事業費変動要因の状況】

- 社会的要因(人件費や消費税等の上昇)による事業費の増加。〔約12.7億円増〕

# 1. 事業概要【天見川】

## 事業費〔前回評価と今回評価の比較：天見川〕

天見川

	全体事業費	工事費	用地費	調査費
前回評価時	約94.4億円	約51.7億円	約38.8億円	約3.9億円
今回評価	約103.7億円	約60.6億円	約38.8億円	約4.3億円
増減	約9.3億円増	約8.9億円増	増減なし	約0.4億円増

## 事業費の変更理由〔前回評価と今回評価の比較：天見川〕

### 【事業費変動要因の状況】

- 社会的要因(人件費や消費税等の上昇)による事業費の増加。〔約9.3億円増〕

## 2. 事業の必要性等に関する視点

### 事業の投資効果【費用便益分析】

- 「治水経済調査マニュアル(案)」(国土交通省 水管理・国土保全局、令和2年4月)に基づいて、被害軽減効果を河川改修事業の効果(便益)として算出を行った。前回評価時は平成17年4月の旧マニュアルを用いて被害額を算出している。新マニュアルでは近年の水害データをもとに被害率等が更新されており、近年の水害被害実態に基づく、より確からしい算定方法に見直された。

※B/C根拠資料P.3-5(年平均被害軽減期待額)より

- 飛鳥川、梅川、天見川では、算定方法の見直しに伴い、浸水域内に農地・田畑が少ないことから、公共土木施設被害額(農地被害額)が減少する結果となった。一方、家屋被害額等の一般資産被害額は増加する結果となり、総計で便益総額が増加する結果となった。
- 被害軽減効果の算定にあたっては、費用の更新、評価基準年の更新、デフレータの更新を行い、B/Cを算定した。便益は、被害軽減効果に治水施設の残存価値を加算し、算出した。 ※B/C根拠資料P.13-15(費用便益分析)より
- 事業費の増加を考慮して費用対効果を算出したところ、今回評価におけるB/Cは5.2(飛鳥川)、5.4(梅川)、4.2(天見川)となった。

河川名	項目	前回評価時(H26)	今回評価(R5)
飛鳥川	B/C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・便益総額/総費用(B/C)=3.7</li> <li>便益総額B= 208.2億円</li> <li>総費用C= 56.6億円</li> <li>建設費 50.8億円</li> <li>維持管理費 5.8億円</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・便益総額/総費用(B/C)=5.2</li> <li>便益総額B= 420.3億円</li> <li>総費用C= 81.2億円</li> <li>建設費 73.0億円</li> <li>維持管理費 8.2億円</li> </ul>
梅川	B/C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・便益総額/総費用(B/C)=4.8</li> <li>便益総額B= 370.7億円</li> <li>総費用C= 76.6億円</li> <li>建設費 68.7億円</li> <li>維持管理費 7.9億円</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・便益総額/総費用(B/C)=5.4</li> <li>便益総額B= 589.6億円</li> <li>総費用C= 109.9億円</li> <li>建設費 98.8億円</li> <li>維持管理費 11.1億円</li> </ul>
天見川	B/C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・便益総額/総費用(B/C)=4.0</li> <li>便益総額B= 254.2億円</li> <li>総費用C= 63.2億円</li> <li>建設費 56.6億円</li> <li>維持管理費 6.6億円</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・便益総額/総費用(B/C)=4.2</li> <li>便益総額B= 351.7億円</li> <li>総費用C= 84.1億円</li> <li>建設費 75.6億円</li> <li>維持管理費 8.5億円</li> </ul>
	マニュアル	「治水経済調査マニュアル(案)」 (国土交通省河川局、平成17年4月)	「治水経済調査マニュアル(案)」 (国土交通省 水管理・国土保全局、令和2年4月)

※B(便益)およびC(費用)は、基準年(それぞれの評価年度)に現在価値化した金額です。

## 2. 事業の必要性等に関する視点

### 地元等の協力体制等

- 地域の住民が中心となった「アドプト・リバー・プログラム(※)」を実施。石川ブロックでは14のアドプト団体が存在。
- 災害リスクの理解を深めるため、地域の小学校での防災学習(出前講座)を実施。
- 自治会や小学校区などの地域単位で、台風などの災害時における適切で円滑な防災行動・避難に向けて、防災の専門家による講演やコミュニティタイムラインの作成に向けた勉強会を開催。



※アドプト・リバー・プログラム：  
地元自治会や企業、市民グループ、学校などに河川の一定区間の清掃や美化活動などを継続的に実施していただき、河川愛護に対する啓発や、河川美化による地域環境の改善、不法破棄の防止などに役立てることをねらいとした取り組み。

### 事業効果の定性的分析【活力・快適性】

- 石川ブロックでは、地域住民と連携した一斉清掃「大和川・石川クリーン作戦」を平成8年度から毎年3月(※)に実施し、河川の美化活動に取り組んでいる。【※新型コロナウイルスの影響により過去3回中止、R5.3月開催】
- アドプト団体と共同し、地域の小学校での生物調査や河川愛護等に対する啓発を実施。

#### 活力



大和川・石川クリーン作戦(R5.3月)



#### 快適性



飛鳥川における生物調査



# 5. 特記事項

## 自然環境への影響とその対策

### 多様な生物の生息について

- ▶ 事業着手前に実施された石川流域における魚類調査(1996年~2012年)では、28種(うち重要種:9種※)が確認されている。  
(※ニホンウナギ、アブラハヤ、タモロコ、ドジョウ、チュウガタスジシマドジョウ、ナマズ、アユ、ミナミメダカ、ウキゴリ)
- ▶ 令和5年度調査(R5.9)では、これまでに確認された重要種6種(アブラハヤ、タモロコ、ナマズ、アユ、ミナミメダカ)が確認された。  
ドジョウは移入個体群に置き換わっていたものの、新たに重要種3種(ヌマムツ、イトモロコ、ギギ)が確認された。  
その他の種においても、確認された個体数の総計に大きな変化はない。
- ▶ 継続的に確認されている重要種が令和5年度調査で確認されているほか、改修事業が進められている3河川(飛鳥川、梅川、天見川)の種構成は過年度調査とほぼ同様で、飛鳥川ではナマズ、梅川ではタモロコといった重要種(大阪府RL2014)も確認されており、河川整備の進捗による生物の生息状況に対する影響は現在のところ見られない。

石川ブロック 魚類調査結果票 : 2023年度調査で初めて確認された重要種

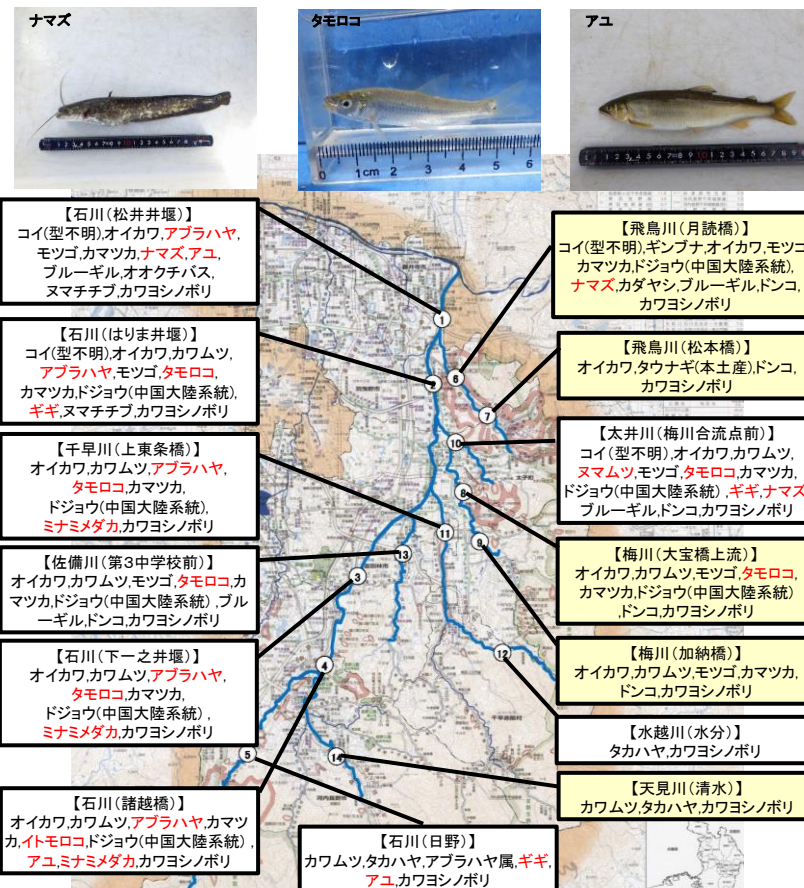
No.	目名	科名	種名	生活型	河川水辺の国勢調査実施年度					重要種	外来種	個体数総計		
					1996	2001	2006	2012	2023			2023	2012	2001
1	ウナギ目	ウナギ科	ニホンウナギ	回遊魚		●	●	●	●	国:絶滅I B類、府:絶滅II類				
2	コイ目	コイ科	コイ(型不明)	淡水魚		●	●	●	●		その他	13	11	15
3			ゲンゴロウフナ	淡水魚			●				国内			
4			ギンブナ	淡水魚	●	●	●	●	●			1	21	16
5			オイカワ	淡水魚	●	●	●	●	●			786	770	149
6			カワムツ	淡水魚	●	●	●	●	●			458	469	256
7			ヌマムツ	淡水魚					●	府:絶滅II類		2		
8			アブラハヤ	淡水魚					●	府:情報不足		56	11	
9			タカハヤ	淡水魚		●	●	●	●			47	149	24
-			アブラハヤ属	淡水魚					●			1	1	
10			モツゴ	淡水魚	●	●	●	●	●			42	88	7
11			タモロコ	淡水魚	●	●	●	●	●	府:準危惧		168	84	11
12			カマツカ	淡水魚	●	●	●	●	●			140	287	30
13			ニゴイ	淡水魚		●								1
-			ニゴイ属	淡水魚					●					3
14	コウライモロコ	淡水魚	●											
15	イトモロコ	淡水魚					●	府:絶滅II類		3				
16	ドジョウ科	ドジョウ	ドジョウ	淡水魚		●	●	●	国:情報不足、府:絶滅II類			34	6	
17			ドジョウ(中国大陸系統)	淡水魚				●		その他	51			
18			オオシマドジョウ	淡水魚			●							
19			チュウガタスジシマドジョウ	淡水魚					国:絶滅I B類、府:絶滅I類					
20	ナマズ目	ギギ科	ギギ	淡水魚				●	府:準危惧		10			
21			ナマズ科	ナマズ	淡水魚		●	●	●	●	府:準危惧	4	1	3
22	サケ目	アユ科	アユ	回遊魚		●	●	●	●	府:準危惧	19	3	6	
23			サケ科	アメマス	淡水魚			●			国内			
24			ニッコウイワナ	淡水魚				●		国内		8		
25	タウナギ目	タウナギ科	タウナギ(本土産)	淡水魚				●		その他	1			
26	カダヤシ目	カダヤシ科	カダヤシ	淡水魚		●	●	●	●	特定	1	1	1	
27	ダツ目	メダカ科	ミナミメダカ	淡水魚		●	●	●	●	国:絶滅II類、府:絶滅II類	6	6	1	
28	スズキ目	サンフィッシュ科	ブルーギル	淡水魚	●	●	●	●	●		特定	11	4	4
29			オオクチバス	淡水魚							特定	2	2	3
30		ドッコ科	ドッコ	淡水魚		●	●	●	●		48	65	20	
31		ハゼ科	ヌマチチブ	回遊魚						国内	3			
32			カワヨシノボリ	淡水魚							223	344	186	
33			ウキゴリ	回遊魚				●	府:準危惧			1		
34	タイワンドジョウ科	カムルチー	淡水魚				●			その他			1	
-	8目	14科	34種	-	9種	18種	21種	23種	24種	12種	11種	24種	23種	18種

注1) 欄内の数字は、捕獲された個体数(全調査地区の合計)を示す。ただし、調査地区は調査年度により異なる。

1996年、2006年調査時の個体数は不明である。

注2) ドジョウは、大阪府の平地部において2000年代以降に在来系統から中国大陸系統に置き換わったことが近年明らかにされたが、石川水系の過年度の確認がどちらの系統に含まれるかは不明である。

データの典拠:「一級河川 石川外 河川水辺環境調査委託(R5) 魚類中間報告書 令和5年9月」



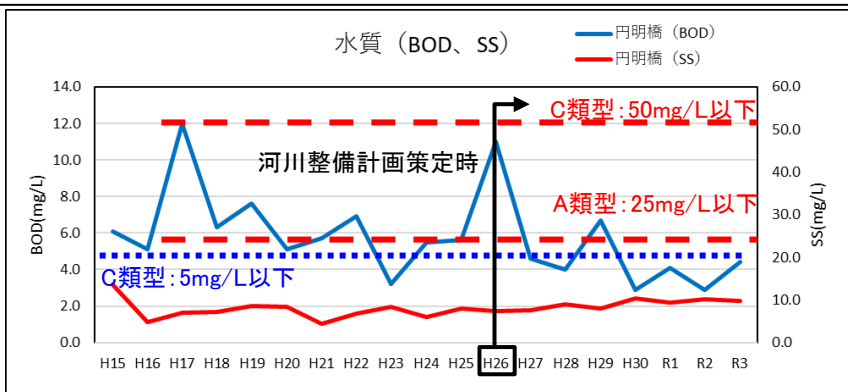
赤字:重要種(環境省RL2020/大阪府RDB2014に記載されている魚類)

# 5. 特記事項

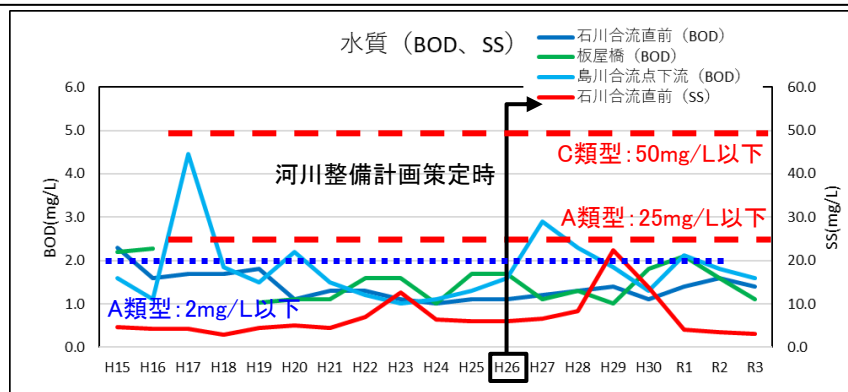
## 自然環境への影響とその対策

### 多様な生物の生息・生育環境を保全するための対策(水質改善)

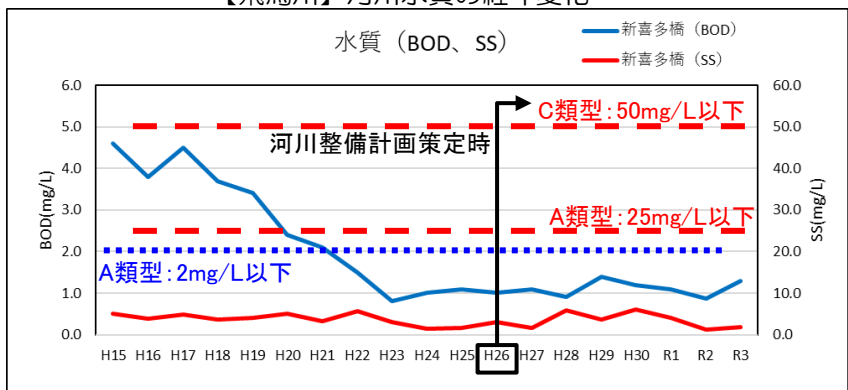
- 行政指導や下水道施設等による水質改善とともに、地域住民、学校等と連携し、生活排水による河川への負荷軽減に向けた環境教育・学習の推進及び啓発活動等を進めることにより水質改善に努めている。(例:大和川・石川クリーン作戦、やまとがわ水生生物観察会、水環境巡回パネル展等)
- 改修工事を実施する際は、仮締切工(大型土のう等)で施工範囲を囲い、施工箇所から河川へ濁水が流れないようにして工事を実施しており、SS(濁水期間平均値)はA類型を維持しており、良好な水質の維持に努めている。
- 水質汚濁に関わる環境基準は飛鳥川でC類型、梅川と天見川でA類型に指定されており、BOD75%値(令和3年度調査)が環境基準を達成している。BOD(年平均値)は、平成28年以降ほぼ横這いの状況であり、良好な水質の維持に努めている。



【飛鳥川】河川水質の経年変化



【梅川】河川水質の経年変化



【天見川】河川水質の経年変化



飛鳥川改修工事  
仮締切工の実施状況

データの典拠:「大阪府域河川等水質調査結果報告書(R5.3)」

「大阪湾と河川の環境保全関係機関による測定結果(測定計画外)」

※各年のSS値については、河川工事を実施する濁水期(11月~5月)の平均値としている。

- ・良好な水質の維持に引き続き努める
- ・魚類の生息環境に配慮して河川整備を進める

# 6. 対応方針（案）

## 対応方針（案）

### 事業の必要性等

- 飛鳥川、梅川、天見川ではR5.6.2の豪雨では水位が氾濫危険水位を超過するなど、浸水被害こそみられなかったものの、危険な水位上昇が確認されている。また、高齢化の進展など社会情勢は変化し、気候変動に伴う洪水リスクが増大する中で、飛鳥川、梅川、天見川ともに浸水範囲内家屋は増加しているなど、河川整備を進めることにより浸水被害を解消する必要性は高まっている。
- 現時点で再度、費用対効果を算出したところ、飛鳥川でB/Cは5.2、梅川でB/Cは5.4、天見川でB/Cは4.2であり、河川整備の経済的便益性が確認できる。

### 事業の進捗の見込み

- 大和川水系石川ブロック河川整備計画（H28年10月策定）及び大阪府都市整備中期計画（R3年3月改訂）に位置付けて事業を進めており、令和4年度末で、事業の進捗率は飛鳥川で15%、梅川で17%、天見川で7%程度である。今後の事業で必要な用地買収や調査等も順調に行われており、事業の完了予定年度は前回評価から変わらず予定通り進捗しているほか、これまでも河川改修を推進し、治水安全度の向上に努めている。

### コスト縮減や代替案等の可能性

- 現場発生土の他工事（翌年度工事も含む）への流用に加え、流用する現場発生土のストックヤードを現場近傍で借地（民有地）することで、土砂流用のために必要となる運搬費用の縮減を図る。



事業の継続



# 5. 特記事項

## その他（流域治水の推進）

▶ 流域治水プロジェクトの根幹となる本整備事業を推進している。併せて、府・市町村・地元と連携して、『逃げる・凌ぐ・防ぐ』の流域治水対策も進めていく。

【大阪府】一級水系  
流域治水管理図

### 大和川水系石川ブロック 流域治水プロジェクト【位置図】

～金剛葛城山系の麓の市街地を守る流域治水の推進～

○石川ブロックでは、当面の治水目標に従い、河道拡幅・河床掘削・堤防嵩上げ等または耐水型都市づくり等による洪水対策を実施します。太井川、水越川を除き、大乗川、梅川、佐備川、天見川では、時間雨量50ミリ程度の降雨、石川、飛鳥川、石見川では時間雨量65ミリ程度の降雨、千早川、宇奈田川、加賀田川、原川では時間雨量80ミリ程度の降雨による洪水を対象に整備を行います。



- 被害対象を減少させるための対策
  - ・土砂災害特別警戒区域内の既存住宅に対する補助制度
  - ・立地適正化計画に基づき水害リスクの低い地域への居住誘導

- 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策
  - ①情報伝達、避難計画等に関する事項
    - ・洪水浸水想定区域の指定拡大【府】
    - ・想定最大規模の雨水出水に係る浸水想定区域図等の作成と周知【府】
    - ・ホットラインの運用(洪水・土砂)【府、市町村】
    - ・避難情報発令の対象区域、判断基準等の確認(広域タイムライン)(洪水・土砂)【府、市町村、民間】
    - ・避難情報発令の対象区域、判断基準等の確認(市域・町域タイムライン)(洪水・土砂)【市町村】
    - ・避難情報発令の対象区域、判断基準等の確認(コミュニティタイムライン)(洪水・土砂)【市町村】
    - ・水害危険性の周知促進【府】
    - ・ICTを活用した洪水情報・土砂災害情報の提供【府・気象台】
    - ・隣接市町村における避難場所の設定(広域避難体制の構築)等【府・市町村】
    - ・要配慮者利用施設における避難確保計画の作成及び避難訓練の実施(洪水・土砂災害)【府、市町村】
    - ・システムを活用した情報共有【府、市町村】
    - ・水防関係者間での連携、協力に関する検討【市町村】
    - ・市町村庁舎や災害拠点病院等の施設関係者への情報伝達の充実【府・市町村】
    - ・市町村庁舎や災害拠点病院等の機能確保のための対策の充実(耐水化、非常用発電機等の整備)【市町村】
    - ・排水施設、排水資機材の運用方法の改善及び排水施設の整備等【府、市町村】
    - ・浸水被害軽減地区の指定【府、市町村】
    - ・樋門・樋管等の施設の確実な運用体制の確保【府・市町村】
    - ・施設管理の高度化の検討【府】
  - ②平時からの住民等への周知・教育・訓練に関する事項等
    - ・水害ハザードマップの改良、周知、活用(洪水・土砂)【府、市町村】
    - ・浸水実績等の周知【府、市町村】
    - ・災害リスクの現地表示【市町村】
    - ・防災教育の推進【府、市町村】
    - ・地区単位土砂災害ハザードマップの作成促進【府、市町村】
    - ・水防に関する広報の充実(水防団確保に係る取組)【府、市町村】
    - ・水防訓練の充実【府・市町村】

- 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
  - ・河道拡幅、河道掘削【府】
  - ・貯留施設整備【府】
  - ・ため池及び農業用施設等の治水活用【府・町・民間】
  - ・既存貯留施設の治水活用【府・町】
  - ・砂防施設の保全【府】
  - ・河道内堆積土砂の撤去
  - ・下水道等排水施設の整備【府、羽曳野市、藤井寺市、富田林市】
  - ・治山施設・森林の整備及び保全

大阪府域の流域関連自治体(5市2町1村)  
河内長野市、富田林市、柏原市、羽曳野市、藤井寺市、太子町、河南町、千早赤阪村

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合があります。

※雨量の目安  
 ・時間雨量50ミリ程度：10年に一度程度の降雨  
 ・時間雨量65ミリ程度：30年に一度程度の降雨  
 ・時間雨量80ミリ程度：100年に一度程度の降雨

出典：大阪府「大阪府における流域治水の取組み」  
南河内地域水防災連絡協議会

# 令和5年度第3回大阪府河川整備審議会【資料1-4】の訂正について

・令和5年度第3回大阪府河川整備審議会【資料1-4 大和川水系石川ブロック飛鳥川、梅川、天見川の河川整備の事業評価について】に一部誤りがありました。ここに謹んでお詫び申し上げますと共に、以下のように訂正いたします。

	訂正前	訂正後
ページ	13ページ	13ページ
訂正箇所	「●」は確認されたが、捕獲された個体数が不明であることを示す。	1996年、2006年調査時の個体数は不明である。

# 令和5年度第3回大阪府河川整備審議会【資料1-4】の修正について

・令和5年度第3回大阪府河川整備審議会【資料1-4 大和川水系石川ブロック飛鳥川、梅川、天見川の河川整備の事業評価について】におきまして、委員の意見を受けて、以下のとおり修正を行いました。

	修正前	修正後
ページ	11ページ	11ページ
修正箇所	被害軽減効果の算定にあたっては、費用の更新、評価基準年の更新、デフレータの更新を行い、B/Cを算定した。便益は、被害軽減効果に治水施設の残存価値を加算し、算出した。	被害軽減効果の算定にあたっては、費用の更新、評価基準年の更新、デフレータの更新を行い、B/Cを算定した。便益は、被害軽減効果に治水施設の残存価値を加算し、算出した。 ※B/C根拠資料P.13-15(費用便益分析)より